

9.12 豪雨災害(安八豪雨)



昭和51年9月(1976年)台風17号と秋雨前線の影響で、1週間にわたる豪雨により、各地の家屋の浸水、田畑の冠水、交通のマヒが続出しました。さらに、9月12日安八町大森地内の長良川右岸堤防が延長80mにわたって決壊し、安八町、墨俣町(現大垣市)の約1,500haは濁水に吞まれる大惨事となりました。(岐阜県内では、死者行方不明9名・流出家屋2戸・床上浸水24,209戸)

昭和51年9月12日 ー長良川・安八町の破堤概要ー

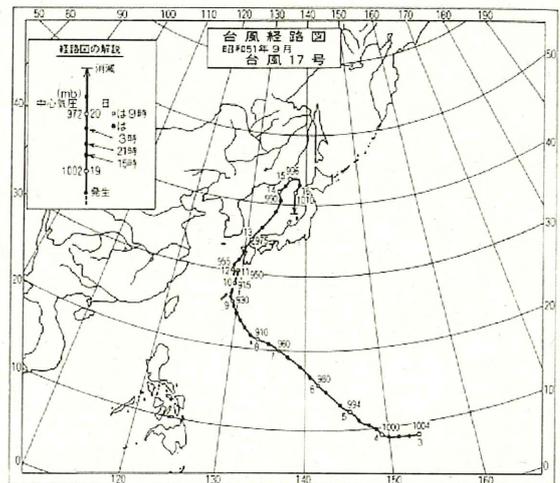
国土交通省木曾川上流河川事務所

昭和51年9月台風17号の影響により、木曾三川の流域は長期間にわたって集中的な豪雨に見舞われた。長良川では、計画高水位に迫る出水となり、高い水位が長時間継続したことから、岐阜県安八町大森地先の長良川右岸堤が決壊し、安八・墨侯の両町に氾濫するなど濃尾平野全体に大災害をもたらした。

1. 気象の概況

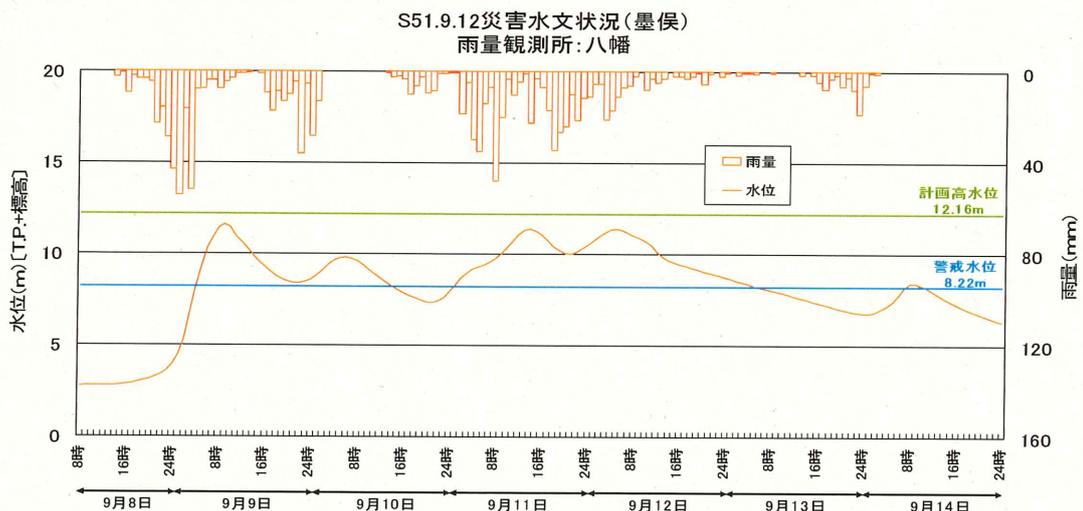
9月4日にカロリン群島付近で発生した台風17号は、発達しながら北西へ進み、また7日に揚子江付近にあった2つの低気圧がまとまり、前線を伴って北島へ進んだため、低気圧から南西に延びる寒冷前線に向かって、太平洋から湿った空気が台風17号に向かって吹き込み、前線付近に多量の雨を降らせていた。

木曾三川流域では、8日の降り始めから14日までの間に総雨量は山間部で1,000mmを超え、平野部においては600mmから900mmの降雨となったが、その中でも特に長良川流域が多く、年間降雨の1/2~1/3がこの短期間に降った。



2. 出水の状況

長良川は、墨侯地点において9日3時に通報水位に達してから14日20時に通報水位を下回るまで延々137時間に及ぶ出水であった。この間5波のピークを記録し、墨侯地点では、警戒水位以上の継続時間は延べ91時間に及び、最高水位11.63m (計画高水位12.16m) を記録した。



3. 水防活動と被害の状況

この出水は、高い水位の継続時間が長かったのに加え、平野部での降雨量も記録的なものであったため、木曾三川全川にわたり危険な状態となり、水防活動が各所で実施された。特に被害が集中した岐阜県全域で、延べ 75,000 人の水防団・消防団・自衛隊及び地元住民が水防にあたり、土のう袋約 12 万枚、杭約 3 万 3,400 本など多くの資材を使用し、長時間にわたり水防活動が行われた。

長良川では、各所で法面崩壊・漏水・ガマ等多発し、法面の補修・法崩れの補強・漏水及びガマ対策など懸命な水防活動が続けられたが、第 4 波のピークが徐々に減水した 12 日 10 時 28 分頃、長良川右岸安八町大森地先において破堤した。破堤長は、当初 50m くらいであったが次第に削られ、最終的には約 80m となり、半壊部分を含めると約 200m に達した。安八・墨俣両町では、町面積の 90%以上が湛水し、その最大湛水深は約 3 m に達し、浸水家屋は約 3,500 戸に及んだ。



4. 復旧工事の概要

長良川破堤箇所の復旧工事は、仮締切後直ちに着手し、改修計画断面で堤防を復旧し、計画高水位までの護岸を施工し、昭和 52 年 3 月末に完成した。さらに、破堤箇所を含む 6.9km の区間については、法崩れ・亀裂・漏水箇所が多発し、堤防が危険な状態となっていたので、止水鋼矢板を施工するなど抜本的な堤防補強を激特事業として実施し、昭和 55 年度に完成した。

